

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103792		
法人名	(特非)福祉サポートセンターさわやか岐阜みのじ		
事業所名	ガーデン柳津北館 多喜恵		
所在地	岐阜市柳津町本郷2丁目13番地1		
自己評価作成日	令和7年3月1日	評価結果市町村受理日	令和7年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2190103792-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症に伴う精神症状が強い方や、医療依存度が高い方も、介護度が重い方も分け隔てなく受け入れ対応している。その為、平均介護度も高い。お看取りも対応しており今年度も2名対応。医療連携も在宅専門の総合診療を得意とする医療機関と連携しており、THP+アプリを用いて、医療面においてご家族、医師、訪問看護師、薬剤師、OT、管理栄養士と職員とで随時双方向性オンラインで情報共有、方向性の提示、意見聴取をしている。また、LINEによって、医療面以外の、動画、写真、文章で日々の様子等を送って共有理解を進めています。職員配置においても7常勤換算7.2人と多めの配置をして、きめ細かいケアと入居者の選択肢を多くとれる様配慮をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はICTを積極的に活用し、業務効率化と情報共有の強化を図っている。人員配置は基準よりも多く、医療依存度が高い方や、介護度の重い方、認知症に伴う精神不安定状態が強い方にも対応している。また、在宅専門の総合診療を得意とする医療機関と連携し、看取りへの対応も充実している。在宅医療連携SNS(THP+)を活用し、多職種連携によって、リアルタイムで利用者の情報を共有し、医療機関、ホーム、家族間で円滑なコミュニケーションを実現している。医療面以外のコミュニケーションでは、SNSを活用し、動画や写真、文章を通じ、リアルタイムで利用者の様子を配信している。今回の家族アンケートには、ホームの対応や取り組みについて、お礼や感謝の言葉が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	厚労省の掲げるグループホームの指針の一語一語をよくかみしめ掘り下げ、それを実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム理念を、入職時に説明するとともに、毎月の会議でも共有している。管理者がOJTを通じ、理念の周知と理解を深める指導を行い、職員の実践力向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以降、交流減少している 隣地のお寺当には散歩に出かけている。初詣は、近所の神社に参拝した。	コロナ禍以降、地域交流の減少はあるものの、日常的に、隣接する寺社やコンビニへの散歩、買い物等は継続している。地域の行事やイベントに積極的に参加し、近隣の商業施設でイベントを主催するなど、地域との関わりを深めている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施、入居者状況、職員状況、経営状況の報告、普段の生活動画や、写真を見てもらい話し合いをしている。また、医療面やお看取りのことも話し合って理解を得るようにしている。18家族中、毎回6～8家族様が参加いただいている	運営推進会議には、行政担当者や地域包括支援センター、民生委員、家族等が参加している。ホームの運営報告を基に、参加メンバーからの質問や意見、要望を受け、双方向的な議論を行っている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が市の福祉委員等をしていることから、市との連携は濃密。各種相談、事故報告などまめに行い顔の見える関係を築いている。	法人代表は市の福祉委員など複数の役職に就き、円滑に情報共有を行っている。主催イベントでは、県や市と協働し、地域福祉の推進に協力している。また、地域の問題解決に向け、行政と一緒に取り組んでいる。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内玄関のみ簡易な施錠はあるが、現実的には入居者は皆さん開けられるので、事実上日中は無施錠。自由に動かれており、拘束はしていない。スピーチロックに関して、会議等で撲滅に取り組んでいる。	毎月の会議で、虐待防止・身体拘束適正化委員会を開催し、事例検討や勉強会を実施している。地域包括支援センターの指導を受け、職員の意識向上に努めている。また、管理者によるOJTを通じ、スピーチロックを含め、一切の身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろんのこと、言葉や態度による虐待もないように、日々注意を払っている。虐待防止委員会と職員会議で勉強会もしている	毎月の会議で虐待防止・身体拘束適正化委員会を開催し、身体的虐待だけでなく心理的虐待や、必要なケアの放棄についても検討している。勉強会やミーティングを通じ、職員への理解浸透を図り、遵守を徹底している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームにも、成年後見制度利用者がいらっしやり、隣の別館にも日常生活実支援制度利用者がいらっしやり、日々の中で学んでいる		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	来訪時にお話を持つようにしている。また、line、THP+で家族に写真を送るなどして、ご意見をいただいている。意見に対しては、職員会議で議論する。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時にホームの方針、できること、できないことを明確にしている。じっくりと時間をかけて話し合いを持っている。また、運営推進会議、家族会議で都度話し合っている。	入居時に、ホームの方針を説明し、理解を得るとともに、運営推進会議や家族会議等で、意見交換を行なう等、話し合いの場を設けている。利用者及び家族の意見や意向については、職員会議で情報共有を図り、協議・検討の上、ホーム運営や支援内容に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が管理者兼任で、現場の介護に入っており常に話せる環境にある。また、職員会議等でも話合っているが、規模、職員の入れ替えがあった為まだ、足りていない。今後も改善していきたい。	風通しのよい職場環境を確保し、職員会議や日常の業務の中で、職員意見や提案を聞き取っている。管理者とユニットリーダーが中心となり、積極的に改善に取り組み、変化する利用者や家族の状況、個別の要望にも柔軟に対応している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	現場で一緒に働いているので常に把握している。2Fユニットで退職者が出たので1月からその応援の為、職員には負担をかけている。早急に改善すべく取組中。ネパール人職員を各ユニット2名体制にする予定。	管理者は、職員と一緒に日常支援に当たることで、職員の日ごろの努力や、具体的な実績、勤務状況を把握している。また、必要以上にルールを決めず、職員の気づきを促し、職員主導を奨励している。さらに、ライフワークバランスに配慮したシフト作成を行い、職員の働きやすい環境を整備している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員配置数や、勤務時間、希望休の取得など環境整備している。順次資格取得にもバックアップしている。12月末職員退職があり、新規職員に入れ替えがあったので再度、注力していく。	職員の育成においては、個々の習熟度や経験年数を考慮し、OJTや研修を通じたスキル向上を支援している。また、資格取得を促進するため、研修費用を法人が負担し、定期的に管理者による勉強会や研修も実施している。	外国籍職員の採用予定もあるため、職員の質の確保と向上に向けた育成が重要となる。OJTや研修を通じ、施設の方針や業務の理解を深め、質の高いケアの提供を支援する体制強化の取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がGH協議会の役員をしていることから行政、同業者との交流は多い。短時間パートを除いた職員には名刺を作成し個人交流もすすめている。理事にも同業者や医師、看護師、社会福祉士、地域代表者がおり常に方向性を担保している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営規定にもあるように、有する能力に応じてできる限り自立した生活が送れるように支援している。また、選択することをできる限りしていただいている。グループホームというコミュニティで利用者間の相互互助という精神を目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1でゆっくりとお話を聴いたり、会話の中にそれとなく混ぜ込み希望や想いの把握につとめている。また、ご家族からも過去の生活史を聞き取り、あくまでも本人の視点に立ち職員で考えてケアにあたっている。また、ご家族にも、それを伝えて一緒に考えている。まだ、これからより改善していきたい。	利用者の思いや意向の把握においては、1対1で話を聴く機会を大切に、日常支援の中の会話を通じて確認している。また、家族から情報を聞き、本人の背景を理解し、利用者の日々の行動や表情からも、意向を汲み取るように努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしのケアのなかから本人、ご家族の希望や想いを聴きだし、職員一同でカンファレンスを持ち、介護計画に反映させるように取り組んでいる。	本人と家族の希望、意向を重視し、介護計画に反映している。モニタリングを参考に、カンファレンスで職員意見を集約し、状況に応じた臨機応変な、支援内容の見直しを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年度より記録を電子タブレット化を導入した。それに基づき、適切にケアに反映できるようにしていく。	電子タブレットを導入し、職員全員が出勤時に個別記録を確認する情報共有を徹底している。介護計画を意識しながら日常支援を実践し、個別記録に、気づきや工夫を記載している。積み重ねた記録を基に、適宜介護計画の見直しに反映させている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の介護記録を作成し、一目で一日の様子がすべてわかるようにしている。職員は全員が記入し、就業前には必ず確認している。また、ご家族来訪時には必ず目を通してもらっている。これにより、情報の共有、ケアプランの基礎資料としている。	利用者や家族の、日々変化する状況や要望に対応するため、臨機応変なサービスの提供に努めている。ホーム協力医や訪問看護との連携をはじめ、多職種が連携し、多角的な視点で最適な支援を実現する方法を模索している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行政、警察、消防、民生委員に、利用者の許可を取った上で情報提供している。職員が、行政や社協の委員を行っているので日頃から協働している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームでは全員が当ホームの提携医をかかりつけ医としている。決して強制したわけではなく、各御家族、本人がそれが一番良いと判断しているため。月2回の定期訪問診療及び24時間365日の対応を契約している。また、必要に応じて他の医療機関に受診する場合は、紹介状を作成の上職員が必ず同行している。	協力医は総合医療ケアが可能で、月2回の訪問診療を実施し、24時間365日対応できる体制を整えている。在宅医療連携SNS(THP+)を活用し、多職種が、リアルタイムで利用者の情報を共有し、円滑なコミュニケーションを図ることで、最善の医療提供を実現している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携が取れており、極力、入院しなくても済む、もしくは短期入院で済むようになっている。	医療機関との連携を図り、情報交換・共有に努め、利用者が安心して治療を受けられる環境を整えている。可能な限り長期の入院を避け、早期退院を目指すように支援し、スムーズな退院に向け、積極的に関与している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前、来訪時、及び運営推進会議等にて、説明や、話し合いをもち、又、順次利用者家族とも、ドクターを交えて終末期に向けた話し合いを行っている。今年度も4名お看取り実施。	入居契約時に、終末期支援にかかわるホームの方針を説明している。また、運営推進会議等、説明や話し合いのできる機会には、積極的に、ホームの対応方針の共有に努めている。本人の状況・状態変化の都度、医師同席のもと、段階的な合意を図っている。意向に沿い、看取り支援を行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間対応の医師、訪問看護との連携を強くし即時に指示を仰ぐ体制確保。また、手順も取り決めてある。職員会議や業務内で随時学んでいる。また、方法等をLINE動画等で共有している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署を交えて、避難訓練実施。当該ユニットはスムーズに実施できている。水害避難計画はできているが周囲道路より3Mの高台(50CM以下の予想地域)にある為比較的安全。非常用発電機や非常用ガス、水、食料の保存有。太陽光発電整備している。ホーム内垂直避難。	消防署と連携した、利用者全員参加の、年2回の避難訓練を実施している。有事に備え、発電機や太陽光発電を導入している。民生委員と連携し、地域住民の避難受け入れを想定した備蓄も整えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、敬意を払い言葉使い、語調、言葉の内容になれあいになってしまわないよう常に注意し合っている。また、プライバシーの保護にも気をつけるよう、職員会議や日々の中で話し合っている。	利用者を人生の先輩として敬い、馴れ合いにならない対応を徹底している。日常支援の中で、職員がお互いに注意し合い、職員会議等では具体的事例を話し合う等、利用者の、その人らしい尊厳ある姿を大切に支援を実践している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の希望や思いをよく聴き、自己決定や、選択してもらうことを大事にしている。やらせるのではなく、自分ペースで過ごしていただく中で、それに合わせ支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定や、選択してもらうことを大事にしている。やらせるのではなく、自分ペースで過ごしていただく中で、それに合わせ支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方においては、行きつけの理美容院に行く利用者もあるし、ホームの訪問理容を利用している利用者もある。髪型や、長さ、ヘアカラーなど利用者の希望に沿って援助している。また、服装においても選択支を用意して選んでいただいている。	食事を楽しめるように、選択食を考え、3食手作りの家庭料理を提供している。冷蔵庫の食材を活用し、利用者のリクエストも取り入れ、その日のメニューに工夫を凝らしている。誕生日には希望のメニューとケーキを用意したり、季節行事には、イベント食を提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好み、状況によって、常に個別にアレンジしている。また、皮むき、とりわけ、片付けなど利用者に手伝っていただいている。管理栄養士の訪問栄養指導も活用している。記録もきちんとしている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの利用者に合わせ、口腔ケアを実施している。優先順位によって、順次提携歯科受診をして行っている。	利用者の状態に合わせた口腔ケアを実施し、利用者の状態や状況に応じ、職員が適切にサポートしている。義歯は、夜間に義歯洗浄剤を使用して清潔を保っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限り、布パンツ使用を心掛けているが、利用者に進行に合わせて、リハパン、パットの使用有。であるが、トイレ誘導や、食事の工夫、服薬管理によって、トイレで排泄を心がけている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に一人週3回実施している。自立見守り～全介助の方まで個々にあった入浴を実施。介助浴もあるので、介護度の重い方でも安心して湯船につかれるようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食の時間を基本7時にしている。リズムを作る必要がある利用者が多くなってきており誘導している。体調の変化に対しても気をつけ、1時間～2時間ずらす方もある。日中は、太陽の光を浴びリセットできるようにしている。点でなく線で生活リズムを見ている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員分ファイリングしており、全職員が見て覚えるよう指示している。それによって、連絡ノートで変更や注意点が指示され全職員が意識できるようにしている。また、訪問薬局の為、都度薬剤師から説明と状況の摺合せをしている	利用者ごとにプレートを用意し、朝・昼・夜の配薬を色分けし、服薬時には本人と一緒に確認している。また、在宅医療連携SNS(THP+)に薬剤師が参加し、服薬に関する説明や助言を受け、職員間では、連絡ノートを通じ、変更点や注意点を情報共有している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やらされるのではなく、本人が自発的にやれることを個別対応の中で、ひとりひとりにあったものを見つけられるように常に試行錯誤している。	利用者には、それぞれが得意なことや、やりたい事で役割がある。役割発揮の場面では、生き生きとした利用者の姿を見ることができる。また、楽しみごととして、食事時の晩酌や嗜好品、スポーツ紙の提供など、個々の嗜好に合わせた支援を行っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別に、希望にあわせて、ただの散歩から、お参りや、買い物、随時実施している。また、対応できるように人員を手厚く配置している。コロナ禍中は、外食、喫茶は自粛中。	日常的に、散歩や買い物等、戸外への外出支援を行い、利用者が地域とのつながりを感じながら活動できる環境を提供している。また、いつでも外出支援が出来るように、基準よりも手厚く人員を配置し、安心・安全に配慮した外出支援を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者には、各自自由に小額のお金を持ってもらっているが、使用するときはホームのお金を支払ってもらうようにして支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	週1でTV電話での家族通話の支援をしている。また、携帯電話を持っている方もあります。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設らしさを極力排し、全面カーペット敷きにして、木製品も多く使い、明るく、温かみのある雰囲気づくりに配慮した。また、季節感が出る花やカレンダーや、置物を置いて、大人の粋を感じられるようしている。また、居間から、本格的な日本庭園が望め季節の移ろいを感じられる。また、利用者が使い易いよう、わかりやすいよう配慮している。	リビングには大きな窓の設置があり、特に2階のリビングは、天井が高く、開放感がある。また、木製品を多く使用し、温かみのある空間が居心地の良い雰囲気を醸し出している。庭は日本庭園風に整備され、広めのテラスでは日光浴が楽しめる。さらに、全館カーペット敷で、利用者が快適に過ごせる、居心地のよい共有空間の整備が見て取れる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが広く、居場所が複数ある。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが、自分流の部屋になるように本人、家族、ホームでアレンジしてある。また、身体能力に合わせて必要なものを配置して、落ち着いて快適に生活できるようにしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にバリアフリーになっているが、利用者の状態に合わせて随時改造したり備品を付けたりしている。トイレや部屋にはわかり易いように大きな字で室名を貼っている。また、随時必要に応じて改良している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103792		
法人名	(特非)福祉サポートセンターさわやか岐阜みのじ		
事業所名	ガーデン柳津北館 ゆづる		
所在地	岐阜市柳津町本郷2丁目13番地1		
自己評価作成日	令和7年3月1日	評価結果市町村受理日	令和7年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2190103792-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症に伴う精神症状が強い方や、医療依存度が高い方も、介護度が重い方も分け隔てなく受け入れ対応している。その為、平均介護度も高い。お看取りも対応しています。医療連携も在宅専門の総合診療を得意とする医療機関と連携しており、THP+アプリを用いて、医療面においてご家族、医師、訪問看護師、薬剤師、OT、管理栄養士と職員とで随時双方向性オンラインで情報共有、方向性の提示、意見聴取をしている。また、LINEによって、医療面以外の、動画、写真、文章で日々の様子等を送って共有理解を進めています。職員配置においても7常勤換算7.2人と多めの配置をして、きめ細かいケアと入居者の選択肢を多くとれる様配慮をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	厚労省の掲げるグループホームの指針の一語一語をよくかみしめ掘り下げ、それを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以降、交流減少している 隣地のお寺当には散歩に出かけている。初詣は、近所の神社に参拝した。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回実施、入居者状況、職員状況、経営状況の報告、普段の生活動画や、写真を見てもらい話し合いをしている。また、医療面やお看取りのことも話し合っ理解を得るようにしている。18家族中、毎回6～8家族様が参加いただいている		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が市の福祉委員等をしていることから、市との連携は濃密。各種相談、事故報告などまめに行い顔の見える関係を築いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内玄関のみ簡易な施錠はあるが、現実的には入居者は皆さん開けられるので、事実上日中は無施錠。自由に動かれており、拘束はしていない。スピーチロックに関して、会議等で撲滅に取り組んでいる。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろんのこと、言葉や態度による虐待もないように、日々注意を払っている。虐待防止委員会と職員会議で勉強会もしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームにも、成年後見制度利用者がいらっしゃり、隣の別館にも日常生活実支援制度利用者がいらっしゃり、日々の中で学んでいる		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	来訪時にお話を持つようにしている。また、line、THP+で家族に写真を送るなどして、ご意見をいただいている。意見に対しては、職員会議で議論する。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時にホームの方針、できること、できないことを明確にしている。じっくりと時間をかけて話し合いを持っている。また、運営推進会議、家族会議で都度話し合っている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が管理者兼任で、現場の介護に入っており常に話せる環境にある。また、職員会議等でも話合っているが、規模、職員の入れ替えがあった為まだ、足りていない。今後も改善していきたい。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	現場にはいっているのですが、きめ細やかには対応しているが、今年度は離職者が多く、1月から入線りに苦戦している。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員配置数や、勤務時間、希望休の取得など環境整備している。順次資格取得にもバックアップしている。12月末職員退職があり、新規職員に入れ替えがあったので再度、注力していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がGH協議会の役員をしていることから行政、同業者との交流は多い。短時間パートを除いた職員には名刺を作成し個人交流もすすめている。理事にも同業者や医師、看護師、社会福祉士、地域代表者がおり常に方向性を担保している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営規定にもあるように、有する能力に応じてできる限り自立した生活が送れるように支援している。また、選択することをできる限りしていただいている。グループホームというコミュニティで利用者間の相互互助という精神を目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1でゆっくりとお話を聴いたり、会話の中にそれとなく混ぜ込み希望や想いの把握につとめている。また、ご家族からも過去の生活史を聞き取り、あくまでも本人の視点に立ち職員で考えてケアにあたっている。また、ご家族にも、それを伝えて一緒に考えている。まだ、これからより改善していきたい。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしのケアのなかから本人、ご家族の希望や想いを聴きだし、職員一同でカンファレンスを持ち、介護計画に反映させるように取り組んでいる。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年度より記録を電子タブレット化を導入した。それに基づき、適切にケアに反映できるようにしていく。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の介護記録を作成し、一目で一日の様子がすべてわかるようにしている。職員は全員が記入し、就業前には必ず確認している。また、ご家族来訪時には必ず目を通してもらっている。これにより、情報の共有、ケアプランの基礎資料としている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行政、警察、消防、民生委員に、利用者の許可を取った上で情報提供している。職員が、行政や社協の委員を行っているので日頃から協働している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームでは全員が当ホームの提携医をかかりつけ医としている。決して強制したわけではなく、各御家族、本人がそれが一番良いと判断しているため。月2回の定期訪問診療及び24時間365日の対応を契約している。また、必要に応じて他の医療機関に受診する場合は、紹介状を作成の上職員が必ず同行している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携が取れており、極力、入院しなくても済む、もしくは短期入院で済むようになっている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前、来訪時、及び運営推進会議等にて、説明や、話し合いをもち、又、順次利用者家族とも、ドクターを交えて終末期に向けた話し合いを行っている。今年度も4名お看取り実施。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間対応の医師、訪問看護との連携を強くし即時に指示を仰ぐ体制確保。また、手順も取り決めてある。職員会議や業務内で随時学んでいる。また、方法等をLINE動画等で共有している。本年度、離設事故あるも、スムーズに連携対応できた。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署を交えて、避難訓練実施。当該ユニットはスムーズに実施できている。水害避難計画はできているが周囲道路より3Mの高台(50CM以下の予想地域)にある為比較的安全。非常用発電機や非常用ガス、水、食料の保存有。太陽光発電整備している。ホーム内垂直避難。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、敬意を払い言葉使い、語調、言葉の内容になれあいになってしまわないよう常に注意し合っている。また、プライバシーの保護にも気をつけるよう、職員会議や日々の中で話し合っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の希望や思いをよく聴き、自己決定や、選択してもらうことを大事にしている。やらせるのではなく、自分ペースで過ごしていただく中で、それに合わせ支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定や、選択してもらうことを大事にしている。やらせるのではなく、自分ペースで過ごしていただく中で、それに合わせ支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	選べる食事メニューの対応や、おやつや、その際の飲み物も選んでいただく対応をしている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好み、状況によって、常に個別にアレンジしている。また、皮むき、とりわけ、片付けなど利用者に手伝っていただいている。管理栄養士の訪問栄養指導も活用している。記録もきちんとしている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの利用者に合わせ、口腔ケアを実施している。優先順位によって、順次提携歯科受診を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限り、布パンツ使用を心掛けているが、利用者に進行に合わせて、リハパン、パットの使用有。であるが、トイレ誘導や、食事の工夫、服薬管理によって、トイレで排泄を心がけている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に一人週3回実施している。自立見守り～全介助の方まで個々にあった入浴を実施。介助浴もあるので、介護度の重い方でも安心して湯船につかれるようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食の時間を基本7時にしている。リズムを作る必要がある利用者が多くなってきており誘導している。体調の変化に対しても気をつけ、1時間～2時間ずらす方もある。日中は、太陽の光を浴びリセットできるようにしている。点でなく線で生活リズムを見ている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員分ファイリングしており、全職員が見て覚えるよう指示している。それによって、連絡ノートで変更や注意点が指示され全職員が意識できるようにしている。また、訪問薬局の為、都度薬剤師から説明と状況の摺合せをしている		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やらされるのではなく、本人が自発的にやれることを個別対応の中で、ひとりひとりにあったものを見つけられるように常に試行錯誤している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に、希望にあわせて、ただの散歩から、お参りや、買い物、随時実施している。また、対応できるよう人員を手厚く配置している。コロナ禍中は、外食、喫茶は自粛中。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者には、各自自由に小額のお金を持ってもらっているが、使用するときはホームのお金を支払ってもらうようにして支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	週1でTV電話での家族通話の支援をしている。また、携帯電話を持っている方もあります。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設らしさを極力排し、全面カーペット敷きにして、木製品も多く使い、明るく、温かみのある雰囲気づくりに配慮した。また、季節感が出る花やカレンダーや、置物を置いて、大人の粋を感じられるようしている。また、居間から、本格的な日本庭園が望め季節の移ろいを感じられる。また、利用者が使い易いよう、わかりやすいよう配慮している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが広く、sファア等複数あり、居場所が複数ある。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが、自分流の部屋になるように本人、家族、ホームでアレンジしてある。また、身体能力に合わせて必要なものを配置して、落ち着いて快適に生活できるようにしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にバリアフリーになっているが、利用者の状態に合わせて随時改造したり備品を付けたりしている。トイレや部屋にはわかり易いように大きな字で室名を貼っている。また、随時必要に応じて改良している。		